

を経たものである。前掲の原文と譯文との間に存する何人も認め得るであらう所の、二三の出入は此事情に歸せらるべきである。譯文の addition Jenkins は近い内に、之れも亦岩波君の店から出版せられる運びになつて居る。

彙報

京都帝國大學文學部哲學科大正八年

年度卒業論文題目

哲學專攻

判斷の意味と對奧

プラトーン氏靈魂説

意識過程に於ける自覺と純明

印度哲學史專攻

無畏壽羅の研究

釋尊の根本教理

密教の哲學的基礎

支那哲學史專攻

三宅剛一

村主岩吉

△濱田與助

大地原誠玄

藤谷宗順

△中井龍瑞

二程子論

倫理學專攻

アリステテレスの徳

荀子の道徳觀

教育學教授法專攻

フレイベルの研究

國民教育

不良少年研究序論

美學美術史專攻

寧樂朝彫刻史論

宗教學專攻

原始教會とパウロ

真宗の起源

保險と現業とに就いて

社會學專攻

生存權の社會學的考察

武士道の研究

貧困より犯罪に進行する社會心理過程の研究

△平田福初

河畑立詮

△三井金一

末包留三郎

榎塚卯助

秋山眞造

△伊勢專一郎

菅岡吉

阿部現亮

清水曉昇

大澤鷲雄

香澤吉太郎

△梶尾密道

我國に於けるアルヂョア階級の發達と資本主義的精神都市計劃の研究

△岡谷 弘
△重永 潜

心理學讀書會

五月八日午後三時半、心理學實驗場に於て例會を開く。講演左の如し。

一、兒童精神能發達過程の標式及び其の診斷

二、一日の各時に於ける兒童精神能消長の標式及び其の診斷

文學士 植崎 淺太郎君

新著紹介

倫理學綱要

英國 チャールス・エフ・ダーシー原著

文學士 紀 平 正 美 共譯

八木 沼 源 八

原著者ダーシーはアイルランドの僧止である。彼が大教區の管理者として、將た又宗教家として如何なる名聲を有してゐるかは知らぬが茲ではそれは問題ではない。哲學之殊に倫理學上に占むる彼の地位は決して高いとはいはれない。名前も餘り響いては居らず、アイスターに、出てゐない。辭書に載つて居らないとは直ちに其人に權威を許さぬ所兵とならないことは謂ふまでもないが本原著並に *Idealism and Theology 1899* を覗いた丈ではアイスターに不足を向けられ相にも思はれない。彼は新カント派に屬す

る一篤學者には相違ないであらう。自我實現説を主張し、グリーンに負ふ處大であると昔ひ乍ら彼に時々反對はして居るがグリーンの矢面に立てる人柄では勿論ない。

譯書には原著の版数や年代が見當らない様であるが見たところでは譯本としては一八九五年の *A Short Study of Ethics* 第一版が用ゐられて居る様である。之と一九〇一年の第二版とは幸にして大差はないから何れに依られた處で不都合はないであらうが折角脚註逐一々翻譯せられながら、増補の分や索引の脱けたのは惜しい様な氣もする。八木沼氏が譯筆を執られて、紀平氏が校閲せられた旨が序文に明記せられてゐて表題を裏切つてゐる様であるが羊頭を最後迄掲げ通したよくある共譯よりは幾分か罪が軽い。譯述の困難なることは校閲者の告白に於つてもない。自我實現説に其鳴を見出された爲めではあらうがこの困難を敢て爲さるゝ以上は其前に書物の選擇が欲ましかつた。

序論の外三卷よりなり、第一は倫理學の哲學的基礎を論じ、第二では倫理學說の概要を述べ、第三は諸の倫理學說の批判に終る。著者の關係から來ることであらうが神の存在を説いてゐる。宇宙論的並に目的論的證明に依つて神を人格的のものゝ認め、實有論的證明に依つて神を單なる人格とせず、一切人格を統一するとするの原理であるとなしてゐる。宗教の立脚點から倫理學を説く者の爲には或は大いに參考となるであらう。東京市神田區表神保町大同館發行。菊版四三三頁貳圓參拾錢。(尾生光三郎)

大乘記信論講話

文學博士 村上 專 著